

2 監視体制、安全対策の改善について

対応状況	課題	改善策
ごみピットに不燃ごみを溜めて、まとめて処理することで効率的な運転に努めていた。	不燃ごみの内部で燃えていたため、放水が直接届かず、また水没もできず消火が困難であった。	・火災時には、放水により不燃ごみを水没させて消火する方法を取れるように、ごみピット内の貯留量を少なくする。(構造上水没可能な3メートルを目安に)
業務終了後、30分間屋内消火栓により約4トンの水をピット内に散水していた。	継続	・業務終了後の散水を継続する。